

令和４年 第３回市議会一般質問回答
(令和４年６月９日(木)市長発言)

周南緑地のＰＦＩ事業を起点とした取り組みについてのご質問にお答えします。

周南緑地は、市民のスポーツや健康づくりの場というだけではなく、広域スポーツ交流拠点としてスポーツコンベンションによる交流人口の拡大や賑わいの創出に寄与しているほか、広域防災拠点施設でもあるなど、多くの機能を持つ本市の貴重な財産です。

現在導入に向けて手続きを進めている、周南緑地へのＰＦＩ事業において、

- ・施設の整備や改修等を進めることによる、スポーツコンベンション機能の強化や、ウォーキングやランニングなど日常的な体力づくりや福祉的な要素を含めた健康づくりの場としての環境の充実
- ・防災拠点としての機能の充実やさらなる整備の検討
- ・子どもから高齢者まで、レクリエーション等、多様な楽しみ方や過ごし方ができる居心地が良く憩いの場所となるような場の創出
- ・全国大会等のスポーツイベントの誘致や開催に加えて、様々なテーマでのイベントの開催によるさらなる賑わいの創出や地域の活性化

などに、ＰＦＩ事業者と連携して取り組み、スポーツ拠点、防災拠点という機能の拡充や、市民の健康づくりや安心安全を支える公園としての発展はもちろんのこと、まちなかにある貴重な公園としてのポテンシャルを最大限に活かし、周南緑地が本市のまちづくりや魅力の向上に大きく寄与する公園となるよう取り組んでまいりたいと考えております。

■事業実施の全体方針

周南緑地を取り巻くまちづくりの歴史	
年	項目
1905年	海軍練炭製造所の設置
1936年	燃料貯蔵のための地下タンク群建設（12基）…後の周南緑地の内、東緑地部分
1944年	人間魚雷回天訓練基地設置（大津島）
1945年	徳山大空襲
1946年～1958年	現在の都心軸エリアの戦災復興土地区画整理事業
1964年	特定重要港湾指定され工業としての発展へ
1964年～1971年	大規模土地区画整理事業（周南団地：現在の秋月地区・周陽地区・桜木地区等の大部分）
1972年	工業地帯と市街地の間の緩衝緑地帯として公共の福利を目的に設置
2003年	徳山市・新南陽市・熊毛町・鹿野町の2市・2町が合併して発足
その他	まちなかには、多くの街路樹が植樹 市街化区域（人口が集積する区域）に166公園の内、164公園が設置 ⇒市民憲章でもある「自然と産業が調和した周南市」に向けたまちづくりを展開 2013年3月：周南緑地基本計画策定 2018年2月：徳山駅前賑わい交流施設オープン 2021年：周陽・遠石地区をスマートシティモデル地区に指定 2022年4月：周南公立大学設立、周南緑地基本計画の改訂 徳山動物園リニューアル事業の展開（進行中）



周南緑地基本計画									
基本理念	スポーツとともにまちの魅力を高め豊かさを育むアメニティパーク								整備及び運営のあり方
方針	①スポーツを起点とした都市の活性化		②公園のある暮らしの実現			③快適・安心・安全な環境づくり			
将来像のイメージ	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	・多様な主体との協働 ・民間の活力・ノウハウを活かした ・周辺の取組や他施設と連携したエリアに波及する
	スポーツコンベンションの拠点	誰もがスポーツに親しみ健やかになれる公園	まちの価値を高める公園	多様な価値を育み柔軟に使える公園	コミュニティを活性化する公園	自然環境とまちが調和した公園	アクセスしやすく誰もが快適に過ごせる公園	(6) 安全・安心な暮らしを支える拠点	



PFI事業における実施方針・要求水準書（案）におけるコンセプト	
目的	これまでのスポーツを中心とした機能の充実に加え、遊び場や休まる場、コミュニティの形成や健康・福祉・教育など、公園を訪れるそれぞれの人にとって価値ある居場所、それぞれの人がもつ多様な価値が接しうる場所、それぞれの人の価値を高めるとともに新しい価値を育む場所として都市公園がもつ自由で開放的な空間づくり、環境保全といった良好な都市環境の形成等、まちなかの広大な「緑とオープンスペース」となっているポテンシャルを最大限発揮し、まちと調和し、住み続けたいまち・訪れたいまち、市びくプライドの醸成の実現に寄与することを目的とする。
基本理念	公園を利用する人、利用者のために活動する人、地域で生活を営む人など、公園を通じて多くの人の多様な暮らしを彩るとともに、うつりかわっていく人々の価値観やライフステージ、また、周辺の取組や社会と「調和」し、柔軟な発想のなかで本市の「まちづくりの象徴」になることを基本理念とする
方針	※PFI方式として実施する旨の記載 ・国としての2050年カーボンニュートラルの実現を念頭に、本事業においては、事業区域全体で二酸化炭素排出量を縮減する取組を行い、先進的な公園とすることを目指す。

市街地形成の歴史（戦前～）

●：現在の公園配置

【昭和21(1946)年～昭和33(1958)年】
戦災復興土地区画整理事業

【昭和39(1964)年～昭和46(1971)年】
大規模土地区画整理事業
(周南団地)

【昭和39(1964)年】
特定重要港湾指定
(工業都市として発展)

【明治38(1905)年】
海軍練炭製造所設置

【昭和47(1972)年】
緩衝緑地として開設

【昭和20(1945)年5月】
徳山大空襲

【昭和19(1944)年】
人間魚雷回天基地設置（大津島）

【昭和11(1936)年～】
燃料貯蔵のための地下タンク群建設（12基）

墓園

出典：国土交通省国土地理院図